

高大接続による高校生向けプログラム実践報告

——系列校間の学びの接続の試み——

鈴木 浩 子*

1. はじめに

明星大学明星教育センターでは新しい試みとして、2018年度に明星高等学校1年生を対象とした講座を実施した。これは、明星学苑内の設置校同士での高大接続の試みであり、「明星教育」を具現化する一環としての明星高等学校と明星大学の接続の試みである。「活躍力」を身に付けるための『自立と体験』プログラム High school version」と名づけられたプログラムの一部として、大学初年次教育として実施している「自立と体験1」を高校生向けに翻案して実施した。

高校生にとっては、日ごろの学習内容をストレッチする機会であり、高校教員にとってはアクティブラーニング方式の授業手法と触れる機会であった。また大学教職員にとっては大学入学前の高校生を理解する機会であったとともに、日ごろ実施している大学での授業を改めて見直すという意味でも貴重な機会であった。

本実践報告では、3回の講座実施内容とともに、この実践の意義、今後の継続の方向性について報告し、高大接続教育への示唆の一つとしたい。

2. 高大接続をめぐる動き

近年、高等学校と大学の学びを接続し、生徒・学生の育成をしていこうという動きが高まっている。「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について～すべての若者が夢や目標を芽吹かせ、未来に花開かせるために～」(中央教育審議会2014)では、高大接続の目標について「高等学校教育と大学教育において、十分な知識・技能、十分な思考力・判断力・表現力、及び主体性を持って多様な人々と協働する力の育成を最大限に行う場と方法の実現をもたらすこと」と述べている。高校教育と大学教育を結び付けて、学生一人一人の「生きる力」を育成していくことの必要性が高まっていることが分かる。

また、大学での学びは、高校での学びに大きな影響を受けることが指摘されている(溝上2018)。溝上は「高校まで家庭学習を行わなかった生徒が、大学生になって家庭学習を行うようになるだろうか。ならない、あるいは難しいといわざるを得ないのが本調査の結果から得られた示唆である」と述べている。「大学に行って何を学びたいか、将来どのような仕事をし、どのような大人になりたいか」や「グループワークに対しての積極的な参加態度」についても同じことが言える。大学で主体的に学ぶ学生を育てるためには、高校までの学びの質や成果が大きく関わってくる。つまりこれからの大学教育を考えるためには、高校での学びの質をより高めること、高校での学びを大学での学びに繋げて一貫して学ぶことが欠かせない。改めて、より実質的な高大接続の実践が必要となってきた。

* 明星大学明星教育センター常勤教授

3. 実践報告

3-1. 開催の経緯

2018年3月に明星高校から明星教育センターに、「自立と体験」プログラム High school Version への協力の申し入れがあり、2018年度に関しては1年生対象の内容をトライアルとして実施するという方針が話し合われた。まずは4月のオリエンテーション合宿に協力することが決定した。また秋にもう一度実施することも予定された。

明星高等学校の教育目標は「自律心をもった自立したひとの育成」であり、「活躍力」を身につけるための「自立と体験」プログラム High school version の教育目標は、「自らの進路を切り拓き、予測不能な社会においても生き抜く『活躍力』の育成」である。1年次の到達目標は「主体的に学ぶための基礎力を養成する」、1学期は「高校生への脱皮」、2学期は「学ぶための基礎力を養成する」、3学期は「相互理解と自己理解の深化」と設定されている。明星教育センターによる1学期と2学期の講座実施は、1年生が「中学生から高校生へと脱皮」を果たし、「高校3年間で学んでいくための基礎力」を身に付けていくための講座となる。高校時代の学びは、大学入学試験に合格するための力を身に付けるだけでなく、大学入学後に主体的に学ぶ学生を育てるために非常に重要であり、本講座の意義は大きいと言える。

3-2. 【実践報告1】オリエンテーション合宿「明星探索中！」

(1) 実施日時

4月25日(水) 13:00～16:50

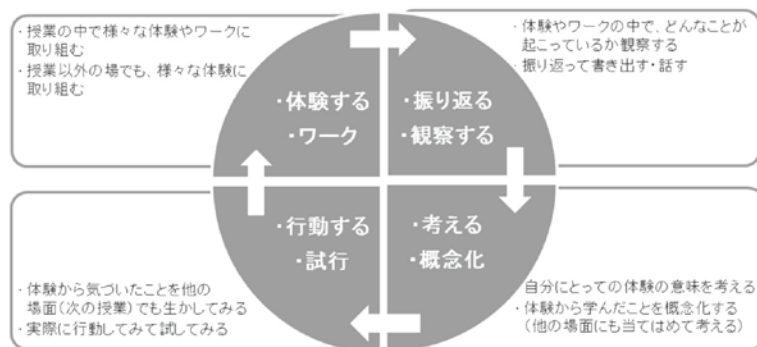
(4月24日(火)～26日(木)オリエンテーション合宿の2日目午後)

(2) ワークショップのねらい

- ① 初日のワークを受けて、他者と協力しながら活動する体験をする
- ② 体験を振り返り、人間関係構築、チーム活動、基本的なコミュニケーション(話す・聴く)に関する学びを概念化する。

(3) プログラム企画上のポイント

- ① 初日のカタリバ場(語る・聴く・目標設定)、Self-Presentation(自分を他者に説明する)の学習内容を活かして、活動ができるように組み立てる。
- ② 初日の学習内容をさらに深めて、チームで協力して活動し、結果を出し、チーム間で競い合う内容を入れる。
- ③ 「自立と体験1」の多様性からの学びの要素を取り入れ、クラスミックスのチームで活動を行う。
- ④ 「自立と体験1」の体験学習の要素を取り入れ、ワークショップの最後に「振り返り・概念化」を行う。



「体験学習のステップ」 引用：『自立と体験1』ポートフォリオ p.16 2017 明星大学出版部

(4) 参加者

明星高校：1年生396名(男子生徒221名、女子生徒175名)
 明星高校：教員18名(担任・副担任)
 明星大学明星教育センター(MEC)：教員9名、職員5名 計14名
 明星大学 勤労奨学生 5名
 そのほか 明星学苑 4名

(5) 実施内容

①チームづくり / ②取材活動 / ③プレゼンテーション / ④振り返り

(6) タイムスケジュール概要

時間	項目	詳細	準備物ほか
13:00	進行担当…明星教育センター／取材先（取材相手教職員学生33名程度） チームづくり ＜50＞ このセッションは、進行状況により延長の可能性あり。その場合以降のセッションで調整。	【体育館に集合】 1. ワークショップのねらいと内容（5） 2. 参加スタッフ紹介（2） 3. チーム分けシート配付（3） 4. ミッション1 ペアづくり（10） ペアになる⇒会話⇒解散 5. ミッション2 4人づくり（10） 4人組になる⇒会話⇒解散 6. ミッション3 チームづくり（6人組）（20） ① 6人組のチームを作る（66チーム） ② メンバー名・チーム名記入 ③ 報告用シート記入 ④ 報告用シートを本部に提出し、指示書を受け取る	体育館設備（ワイヤレスマイク、プロジェクター、スクリーン） 当日の実人数を確認→司会 ①チーム分けシート G ②報告用シート G ③チーム用指示書 ④タックシール
13:50	休憩		
14:00	取材活動 ＜60＞	1. 取材準備（10） ① 指定された取材相手のところに移動 ② 教職員から取材シートを配付 2. 取材（30） ① テーマに関して5分程度話す。 ② 生徒の質問に答えるなどやり取り 3. チーム内で取材内容確認（15） 4. 自分のクラスに移動（5）	取材相手の教職員は休憩中に移動 ⑤取材内容メモシート
15:00	休憩		
15:10	進行：明星高校／サポート：MEC プレゼンテーション ＜70＞	1. グループ分け（5） 6グループ 2. 個人プレゼン（15）2分×6-7人 3. グループプレゼン用シート作成（30） 4. グループプレゼン（15）6グループ 5. クラスシート作成（5）	G ⑥ A2シート /A4シート（下書き用） 各クラス準備物
16:20	振り返り ＜30＞	1. 振り返りシート個人記入（10） 2. グループ内共有（10） 3. 教員まとめ（10）	⑦振り返りシート
16:50	終了	※振り返りシートは必要に応じて提出。	

※各クラス準備物(ブロッカー・マグネットバー・メンディングテープ・タイマー)

(7) 実施担当教員の所感

- ・開始前の生徒の印象としては、明るさや元気さが感じられた。
- ・開始当初はやや緊張感があったが、指示を理解し自分たちで動くことができていた。入学間もない高校1年生としては、期待される行動が取れていた。
- ・少数であるが、「無言で行動するという指示が守れない」「異なるメンバーでチームを組むための工夫が不足している」等の傾向も見られた。この点については、「なぜ無言で行動するのか」「なぜ異なるメンバーでチームを組むのか」の理解が不足していたためもあった。目的を理解することでさらに的確な行動が取れると考えられる。

- ・取材活動では、全体として熱心に話を聞いてメモを取り質問する様子が見られた。生徒たちが活動に興味を持ち、積極的に取り組んだ様子が感じられた。
- ・各クラスでの活動（プレゼンテーション）では、グループごと・クラスごとの差があったが、全体としては「自分たちで考えて行動する」というより「言われたことを実施する」というグループ・生徒が多いように見られた。「考えて行動すること」を促すためには、よりいっそう教員側が意識して働きかけることが必要と感じる。
- ・多くのクラスで振り返りが時間不足になったが、生徒たちは振り返りシートを熱心に記入していた。参加者全員が「振り返り」という学習プロセスに慣れてくれば、さらに効果的に振り返りを行うことができると考えられる。

(8) 実施の成果

- ・初対面の相手や慣れていないメンバー同士でコミュニケーションをとる経験をすることで、多様なメンバーとの交流を楽しんでいる様子があった。「他者と協力しながら活動する体験」をする機会にもなり、「積極的に」「自分から」働きかけることの重要性に気づいた生徒が多く見られた。
- ・取材テーマ「明星学苑の今・昔」「高校や大学の特徴」「府中市」について知ることができてよかったという感想が多く見られた。知識や興味を持つことが、高校生活への期待につながっている印象があった。また実際の経験談を聴くことで「高校生活の過ごし方」について考え「大学生活への興味」を高めている様子もあった。
- ・プレゼンテーションでは、クラス内のメンバーと協力しながら活動する体験ができた。作成したプレゼンテーションシートの完成度の違いから、「活動の質」には差があった。
- ・振り返りシートを記入することで、生徒一人ひとりが活動からの学びを振り返ることはできており、生徒にとっては「コツ」として今後活かすヒントを得られた。

3-3. 【実践報告2】秋の「自立と体験」High school version

(1) 実施日時

キャリア講演会 10月24日(水) 8:40-10:30
「自立と体験」プログラム 11月7日(水) 8:40-10:30

(2) 対象

1年生、MGS(特進)クラス3クラス100名

(3) 明星教育センター担当の目的

- ・キャリア講演会と自立と体験プログラムとの学びをつなげ、1年生2学期の到達目標「学ぶための基礎力を養成する」を目指す。
- ・「自立と体験1」授業以外の場面で学修する際に役立つ、「ノートを取り方」「話の聴き方」「話し合いの仕方」「時間管理」等について考え、コツをつかみ理解する。
- ・明星高校生に「自立と体験1」の授業手法を用いて学習してもらうことにより、明星学苑の教育方針に触れる機会をつくる。

(4) キャリア講演会の詳細

- ① 日時：10月24日(水) 8:40-10:30 (50分×2時間=100分)
- ② クラス分け：100人全体で実施

- ③ 場所：視聴覚教室（1教室、教室形式）
- ④ 担当：明星教育センター教員2名（進行役、講演者）
- ⑤ ねらい：
- ・学ぶための基礎力を養成する。大人としての振る舞いを知る
 - ・「時間管理」「話の聴き方」「ノートの取り方」
- ⑥ テーマ：「イノベーションとPDCA」
- ⑦ 持参物：ノート（ノートテイクの演習を行う）、筆記用具（カラーペンなど）
iPad（eポートフォリオ入力用）
- ⑧ 内容

時間		項目	詳細	備考
8:40	10	導入	・今日のねらいと内容 ・講演でのノートの取り方説明	配付資料
8:50	40	講演	・テーマ「イノベーションとPDCA」 ・「講演でのノートの取り方」を意識してノートを取る。	自分のノートに記録
9:30	10	休憩		
9:40	10	個人ワーク	・自分のノートを見ながら印象に残ったポイントを2つ挙げる。	ワークシート
9:50	10	グループワーク	・ペアで話し合う。 ・「印象に残ったこと」を共有する。 ・ペアで「質問」を考える。	ペアまたはトリオ
10:00	20	質疑応答	・質問のあるペアは挙手して質問する。教員から回答する。 ・質問が無ければ、適宜指名して感想を発表させる。 ・教員からまとめ	全員が発表しなくてよい
10:20 10:30	10	振り返り 終了	・eポートフォリオ入力	

※10月31日頃にワークシートの「振り返って考える」を記入する時間を取っていただく

(5)「自立と体験」プログラムの詳細

- ① 日時：11月7日（水）8:40-10:30（50分×2時間＝100分）
- ② クラス分け：MGSの3クラスを新たに組みなおし、クラスミックスで実施。
- ③ 場所：各教室（3教室、グループ形式）、
36人クラス×1 6人×6グループ
32人クラス×2 4人×8グループ
- ④ 担当：明星教育センター教員3名（各クラス1名×3クラス）勤労奨学生3名
- ⑤ ねらい（目的）：
- ・学ぶための基礎力を養成する。大人としての振る舞いを知る。
 - ・「話を聴く」「考える」「考えを伝える」「話し合う」
- ⑥ テーマ（目標）：時間について考える（時間管理の考え方を学ぶ）
- ⑦ 内容

時間		項目	詳細	備考
8:40	10	導入	今日のねらい、授業の進め方 ・キャリア講演会に続いて、時間について考える。 ・今後さまざまな場で「大人」と接して学んでいくためのコミュニケーションスキルを身につける。 ・多様な考え方を知するためにクラスミックスで実施	グループ形式 配付資料

8:50	10	時間について考える	自己紹介・キャリア講演会振り返り	・自己紹介とアイスブレイクを兼ねる ・キャリア講演会のワークシートを見ながら「話を聴いて印象に残ったこと」「改めて考えたこと」をグループ内で共有。1人2分程度	ポストイット(3色)
9:00	10		時間管理のマトリクス	・時間管理のマトリクスのシートを用いて説明。キャリア講演会でも時間について考えたが、別の切り口で考えるための資料。 ・4象限について簡単に説明する。	
9:10	20		一問一答インタビュー	・一問一答インタビュー(20) 「時間をつくってやりたいこと」(第2象限の使い方)	
9:30	10		休憩		
9:40	5	聴く・伝える・話し合う 大人として	質問の仕方のポイント	・Open 質問、Closed 質問の復習 ・このテーマは既に学習済みなので復習として説明 ・一問一答インタビューでは使えていたかを確認 この後のワークでは使ってみるように促す	
9:45	20		他者紹介	・テーマ「時間を作ってやりたいこと」 ・グループを組みなおす(ペアは同グループでも可) ・Open 質問、Closed 質問を用いて、深く聴く・丁寧に伝えることを意識する	
10:05	7		振り返り	・e ポートフォリオ入力	
10:12	8		振り返り共有	・e ポートフォリオに入力した内容を、グループ内で共有。 ・全体で共有。まとめ。	
10:20	10		まとめ	・大人として聴く・考える・伝える・話し合う ・キャリア講演会で実践したノートの取り方と、今日のワークを関連付けてまとめるシートを用いてまとめ。	
10:30					

(9) 実施の成果

- ・キャリア講演会は、「イノベーションと PDCA」という2つの観点から「時間の使い方」について考えてみるという講演を聴き、席の近いメンバーと感想を共有しあうというワークを行った。新たな観点を得られたこと、ノートを取ること、ノートをもとに話し合うこと等を体験できたことについて、肯定的な反応が得られた(参考資料1)。
- ・「自立と体験」プログラムでは、さらに時間の使い方の新しい観点として、時間管理のマトリクスを用いて、自分自身の時間の使い方、時間を作ってやりたいことについてのワークを実施した(参考資料2)。特に他者に質問するというワークは高校生にとって新鮮であり、熱心に取り組む様子が見られた。
- ・最後に2回の実施を関連付け、学習方法と思考のプロセスを説明した。「話を聴いて情報を得る⇒考える⇒問いを立てる⇒意見を表現する⇒再び1人で考える」という思考のプロセスは無意識に実施していることもあるかもしれない。さらに今後は、「意識化して行動を変容させること」を目指した。今回の取組の成果が現れるには、長いスパンで見えていくことが必要と考えるが、まずは今回のプログラムの内容を、日常の授業に接続していくことが重要である。

4. 今後の改善ポイント

今回の取組で提供した3回の高校生向けプログラムは、総じて生徒評価、高校の教員評価ともに高く、2019年度も継続して実施が決まった。来年度に向けて、より多くの学びが得られるプログラムとするために、以下のような改善ポイントを意識していきたい。

① 全体感を持ったプログラム策定

- ・ 明星高校の、「活躍力」を身に付けるための『自立と体験』プログラム High school version』全体の中で、明星大学明星教育センターがどの部分を担当し、何をを目指すのかを明確にしておくことが望ましい。

② 「体験からの学び」をより効果的にするためのプロセス

- ・ 体験を学びに変えるためには、意図的な体験と、振り返りの効果的な実施が不可欠である。振り返りの意味や方法について、高校教員、高校生が理解していることが望ましい。

③ 高校教員と大学教員の連携

- ・ 単発のプログラムは、インパクトの大きさという強みがある一方、一時的な学びにとどまってしまうという弱みも大きい。何より重要なのは、日常の学習とつなげることにある。そのためには、大学が提供するプログラムへの高校教員の関りを増やし、そこでの学習を日常の学習につなげることを意識してもらうことが必要だろう。

以上述べてきたように、高校教員と大学教員の連携を高めることが、学習プログラムの接続、生徒と学生の学びの接続、さらには、系列校同士の教育理念の接続を実現することにつながる。高校での生徒の学習態度が、大学での学生の学習態度に大きな影響を与えることを意識しながら、さらに効果的な高大接続による高校生向けプログラムの実践を目指したい。

参考

- 「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について
～すべての若者が夢や目標を芽吹かせ、未来に花開かせるために～」 中央教育審議会 2014
- 「高大接続の本質」 溝上慎一責任編集 学事出版 2018
- 「自立と体験1」 ポートフォリオ 明星大学出版部 2017

＜参考資料1＞ **キャリア講演会 ワークシート**

名前 _____

【個人検討】自分の考えをまとめる

講演を聴いて記録したノートを見ながら、「印象に残ったこと」を2点あげてください。

＜進め方＞

- ①ノートの「大事なポイントだったこと」「これは覚えておきたいと思ったこと」「本当だろうかと思ったこと」「質問してみたいと思ったこと」「もっとこうなったらいいのに」と思ったことに、アンダーラインを引いてください。
- ②ノートのアンダーラインを引いたところを見ながら、「印象に残ったこと」を2点選んでください。

＜印象に残ったこと＞

【ペア・トリオ検討】ペアで話し合う

ペアまたはトリオで、個人の考え（印象に残ったこと）を共有します。必要に応じて質問をして、お互いの考えを理解しあい

ましょう。また講師に質問したいことも考えてみましょう。

＜話し合ったこと＞

他のメンバーの意見 <印象に残ったこと>
講師に質問したいこと

【日常につなげる】振り返って考える

キャリア講演会で印象に残ったことを意識して、毎日の生活を送ってみてください。

このシートは11月7日の「自立と体験プログラム」の際に使用します。以下に記入して持参してください。

印象に残ったことについて、改めてどのようなことを考えましたか。実際にやってみたことはありましたか。そのほか考えた

ことはありましたか。

--

<参考資料 2> **明星高等学校「自立と体験プログラム」**

組	番号	名前
---	----	----

- 今日のねらい（目的）
- ・学ぶための基礎力を養成する（話を聴く、考える、考えを伝える、話し合う）。
 - ・今後さまざまな場面で大人と接して学んでいくための、大人としての振る舞いを知る。
- 今日のテーマ（目標）
- ・時間について考える
- 今日の進め方
- ・個人で考える⇒ペアやグループで話し合うという活動を行いながら進めます。
 - ・クラスの異なるメンバーと、様々な意見を話し合ってみましょう。
 - ・明星大学1年生の授業「自立と体験1」の内容を参照しながら進めます。

1. 自己紹介&キャリア講演会振り返り

今日はクラスの異なるメンバーとグループをつくっています。まず最初に、自己紹介をします。クラス、名前と一緒に、マイブーム（いま興味を持っていること等）を話してみてください。

次に、10月24日のキャリア講演会「イノベーションとPDCA」を振り返ります。講演会で印象に残ったことを意識して毎日の生活を送ってみて、どのように感じましたか？ 実際にやってみたことはありましたか？ 考えたことはありましたか？ グループ内で紹介し合ってみましょう。

全員の紹介が終わったら、自由に話し合ってください。

クラス	名前	マイブーム	振り返り内容

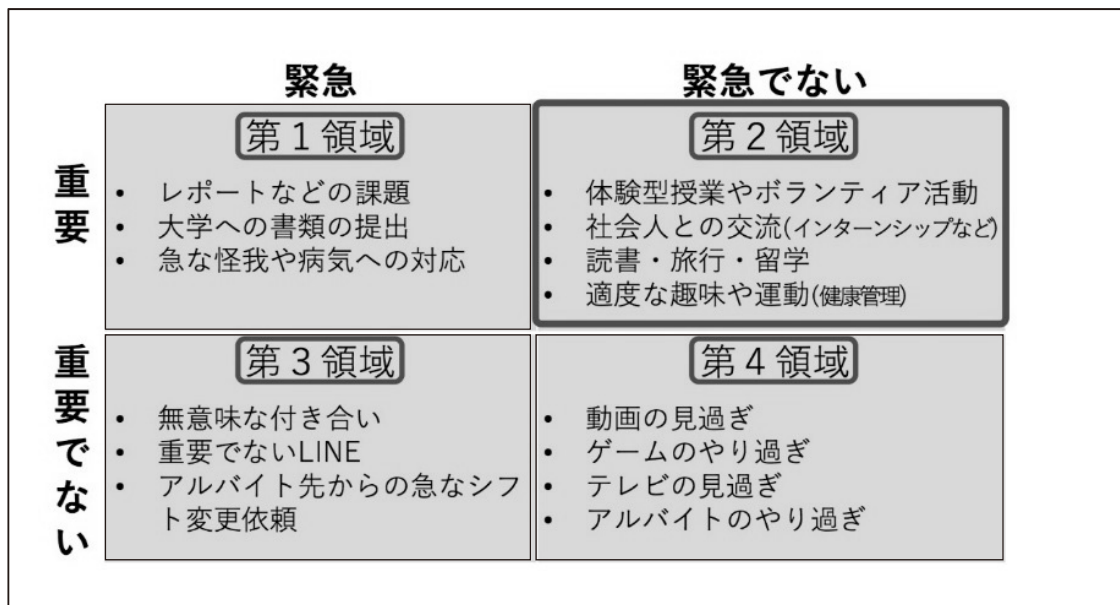
2. 時間管理のマトリクス

キャリア講演会では、イノベーションを生む時間、PDCA の観点の時間について考えてみました。時間管理には、さまざまな考え方の切り口があります。今日は異なる角度から考えてみましょう。

次の資料は、「自立と体験1」ポートフォリオ p.23 のコラムです。今のあなたが、時間をつくってやりたいこと（自分にとっての第2領域）は、どのようなことですか？

大学生の時間管理 —— あなた自身の時間を大切に生きる

下の図は、ブリガムヤング大学教授スティーブン・R・コヴィーによる「時間管理のマトリクス」の考え方を現代日本の学生生活に位置付けて表したものです。第1領域は、大学生活で必ず取り組まなくてはならない事柄です。一方、第2領域は緊急ではないために、つつい後回しにしがちですが、実は大学生活と卒業後の人生を真に充実させるために非常に重要な事柄です。



大学生活には「やらなくてはならないこと」(第1領域)や「巻き込まれてしまうこと」(第3領域)がたくさんあります。「やるべきこと・やったほうがよいこと」(第2領域)に時間を使うためには、規則正しい生活を送ることを基本に、授業の予習・復習、レポートなどの課題に計画的に取り組むことが欠かせません。時間管理は、何かに流されるのではなく、あなた自身の時間を大切に生きるためのスキルでもあるのです。

参考: スティーブン・R・コヴィー著『7つの習慣』フランクリン・コヴィー・ジャパン訳、キングベアー出版、2013年

3. 時間をつくってやりたいこと（一問一答インタビュー）

自分が時間をつくってやりたいこと(自分にとっての第2領域)をグループで共有してみましょう。
進め方は「一問一答インタビュー」を用います。

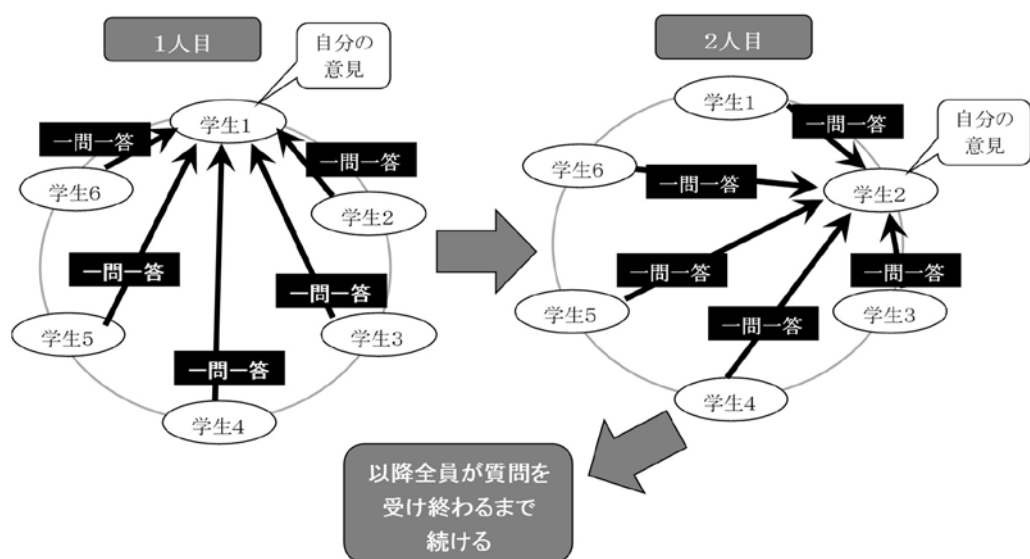
私が時間をつくってやりたいことは

【一問一答インタビューの進め方】

- ・グループメンバーの最初の1人（学生1）が、自分の意見を簡潔に話します。
- ・学生1の左隣の人（学生2）が、学生1に対して質問をします。質問は1つだけです。
- ・この質問に対して、学生1が答えます。
- ・同じように、学生3、学生4、学生5、学生6が質問し、それに対して、学生1が答えます。
- ・全員が質問し終わったら、次は学生2が自分の意見を話します。それに対して他のメンバー全員が1つずつ質問します。
- ・このようにしてグループの学生全員が質問を受けたら終了です。

【基本ルール】

- ・相手が答えにくい質問はやめましょう。
- ・答えられない質問をもらったら、パスと言って、もう一度別の質問をしてもらうこともできます。
- ・前の人とは違う質問をするようにしましょう。



4. 聴き方・質問の仕方

聴き方に2種類があることは、すでに学習していますね。再度確認しておきましょう。



「聞く」は、私たちが普段の生活でよくしている方法です。音をそのまま聞く、聞き流すといった方法で、英語で言えば、‘hear’が当てはまります。これはこれで必要なのですが、相手の話をしっかり聴こう、話を聴くことでお互いに理解しあって良い関係を作ろうと思ったら、この「聞き方」だけでは役に立ちません。



「聴く」は、相手が伝えたいと思っていることを理解しようとして聴く方法です。英語では‘listen’が当てはまります。耳を澄ませて集中してしっかり聴くというイメージです。「聴」という漢字は、「耳」と「目」と「心」でできています（「目」は横向きになっています）。耳で聴くだけでなく、目でしっかり相手を見て、心で相手を理解しようとして聴くことで、相手と良い関係を作ることができるのです。

質問の仕方にも2種類があります。目的に合わせて、使い分けていく必要があります。

クローズド質問

相手が一言で答えられる
答えが限定されている

答えが「はい・いいえ」
「Aです」「Bです」になる質問

「犬は好きですか」
「ペットはオスですか、メスですか」
「ペットの犬の名前は何かですか」

オープン質問

相手が自由に答えられる
答えが限定されていない

「なぜ」「どうして」「どのように」
「どんなふうに」等で始まる質問

「ペットの犬のどんなところが好きですか」
「どんな特徴がありますか」
「なぜ犬を飼ったのですか」

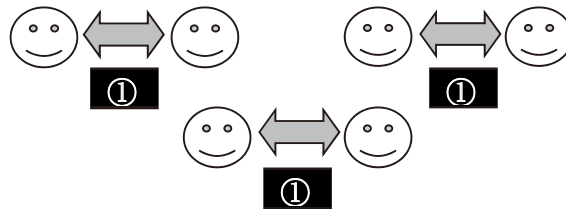
一問一答インタビューでは、こういった聴き方・質問の仕方ができていましたか？
次のワークでは、聴き方、質問の仕方を意識して、活用してみましょう。

5. 他者紹介

他者紹介とは、ペアになって、相手から聴いた話をグループのメンバーに紹介する方法です。相手の話をしっかり聴き、聴いて自分が考えたことをまとめ、分かりやすく伝える力が必要です。

「時間をつくってやりたいこと」というテーマで、他者紹介をおこなってみましょう

- ① ペアになって、お互いにテーマについて話します。このとき相手の話は**メモを取らず**に聴きます。相手に**関心を持って、集中して**聴きましょう。自分が関心を持っていることを伝えるために、**相手の顔を見ながら、うなずいたり、相づちをうって**、聴いてください。**オープン質問**も使って「なぜ好きなのですか」「実際にあった出来事を、少し詳しく話してください」のように聴いてみてください。時間はペアで10分です。



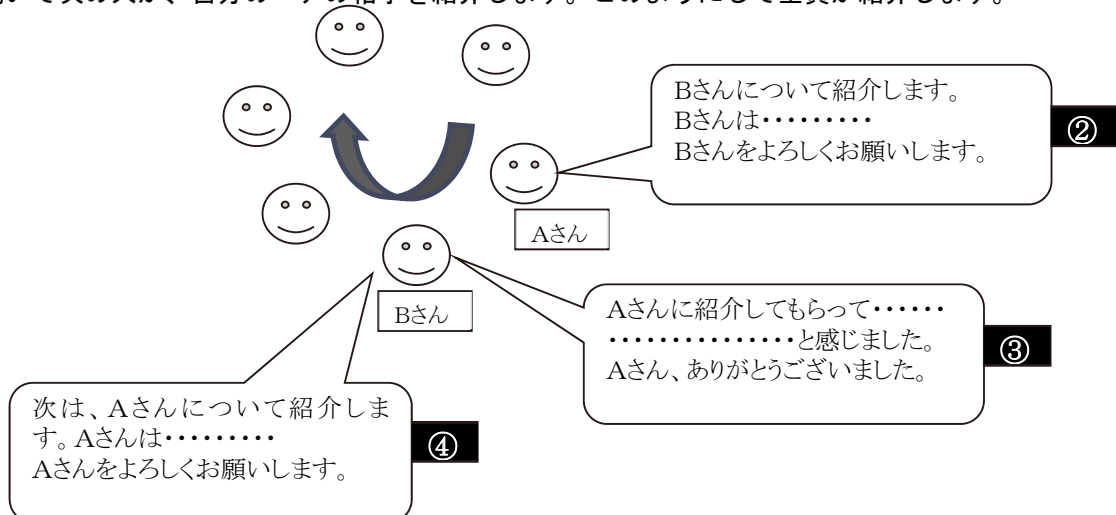
- ② グループになって、1人ずつ順番に、相手から聴いた話をグループのメンバーに紹介します。

時間は1人1分程度です。「〇〇さんについて紹介します」と始めるとスムーズです。

ペアの相手をアピールするつもりで話しましょう。

- ③ 紹介してもらった人は、「自分の紹介を聴いた感想」を一言話します。お礼の言葉でもかまいません。

- ④ 続いて次の人が、自分のペアの相手を紹介します。このようにして全員が紹介します。



- ①今日のプログラムを通じて、感じたこと、考えたこと、気が付いたことを ipad に入力してください。
②グループ内で、それぞれの振り返りを共有してください。

他のメンバーの振り返りを聴いて、感じたこと、考えたこと、気が付いたことがあれば、書き加えてください。

7. まとめ

【時間について考える】

キャリア講演会（10月24日）と、「自立と体験」プログラム（11月7日）では、「時間について考える」というテーマで学んできました。あなた自身の時間の使い方には、どのような傾向がありましたか。これからどのように時間を使っていきたいですか。普段、無意識に行動していることを意識化して考えてみることで気づくことがあります。今回の気づきを、今後に活かしていきましょう。

また、今日考えた「時間をつくってやりたいこと（自分にとっての第2領域）」は、ぜひ実現してください。

【学ぶための基礎力を養成する・大人としての振る舞いを知る】

キャリア講演会と「自立と体験」プログラムでは、次のような活動をしてきました。

講演を聴く	活動	一問一答インタビュー・他者紹介
相手の話を正確に聴く。大事だと思うこと、本当かなと思ったことを意識しながら、ノートを取る。	話を聴いて ポイントをとらえる ▼	相手の話を集中して聴く。相手が伝えたいと思うポイントをとらえながら聴く
ノートを見返しながら、講演についての自分の意見を考える。 グループで話し合う。	考える ▼	相手が話したいこと、自分が興味を持った点について、自分の意見を考える。
講演者の話への疑問点、もっと知りたいことを考える	問いを立てる 疑問を持つ ▼	相手の話への疑問点、もっと知りたいことを考える
挙手をして質問する	質問する 話し合う ▼	相手に質問する
相手の答を聴いて、それに対する自分の意見を考える	さらに考える	相手の答を聴いて、それに対する自分の意見を考える

「話を聴く」⇒「考える」⇒「問いを立てる・疑問を持つ」⇒「質問する・話し合う」⇒「さらに考える」というプロセスは、これからのさまざまな場面で活用することが出来ます。受け身で話を聴くだけでなく、主体的に考えながら話を聴くことを意識していきましょう。